



松田母子クリニックにおける無痛・和痛分娩の同意書

当院における無痛・和痛分娩は硬膜外麻酔法を用いて行います

説明医師

[1] 計画無痛分娩

あらかじめ入院日を設定し、分娩誘発をおこないながら硬膜外麻酔を施行します。陣痛促進剤を使用しても陣痛が来しない方がいますので、原則、経産婦さんにお勧めできる方法です。初産婦さんで希望される場合には予定日直前またはそれ以降をお勧めいたします。事情により相談を承ります。

[2] 自然陣痛発来後の和痛分娩

自然陣痛が発来してから硬膜外麻酔カテーテルを挿入する方法です。陣痛の発来を待って麻酔を開始するので、陣痛促進剤の使用頻度は減ります。到着から痛みが取れるまで約1時間程度かかります。陣痛が来てから来院まで時間がかかる地域に居住される方は間に合わない可能性がありますので相談ください。

硬膜外麻酔による無痛・和痛分娩における主なメリット・デメリット

(硬膜外麻酔そのものの副作用については「麻酔同意書」に記載している通りです)。

メリット

- ① 陣痛の痛みが軽減されるのでリラックスできます
- ② 外陰部や膣に傷ができた場合、縫合時に痛みがありません
- ③ 長時間の痛みによる体力の消耗をおさえます
- ④ 交感神経抑制で血圧が安定します。高血圧や心臓に持病にある方に適しています
- ⑤ 分娩中の緊急帝王切開の頻度が減少します。緊急時、帝王切開が必要となった場合は、手術が速やかにできます

デメリット

- ① カテーテル挿入時に痛みがあります。片効き・まだら効きなどで再挿入となることがあります
- ② 微弱陣痛で陣痛促進剤の使用や吸引・鉗子分娩が必要になることがあります。その場合、膣・肛門裂傷を負うことがあります
- ③ 分娩中歩行困難となることがあり排尿は助産師の導尿/膀胱留置カテーテルとなります
- ④ 赤ちゃんの頭が長期間骨盤内を圧迫するために、子宮口全開大から数時間以上の分娩の際には、産後の排尿障害や下肢の神経障害のリスクが高くなる場合があります
- ⑤ 稀に硬膜外穿刺による髄液漏症候群(起立性頭痛)が起こることがあり、その際には自家血液硬膜注入(ブラッドパッチ)を施行します
- ⑥ 極めて稀ですが、硬膜下血腫・膿瘍、局所麻酔中毒、全脊椎麻酔などの報告があります

無痛・和痛分娩は健康保険の給付対象とはなりません。

【医事課からのご案内】に費用についての詳細を記載しておりますのでご参照ください。

以上の説明を聞き、了解しました

[1]計画無痛分娩 [2]自然陣痛発来後の和痛分娩 を希望いたします。

署名日(西暦) 年 月 日

患者本人の氏名



麻酔同意書

説明医師

麻酔とは手術時の疼痛や陣痛など種々の外的ストレスから患者さんの心と身体を守るための医療で、一般的には以下のように伝わります。

刺激（疼痛）→感覚神経→脊髄神経→脳→脊髄神経→運動神経→手や足
 そこで、手術内容と患者さんの状態によって以下の 4 つの麻酔法を組み合わせることで痛みの伝導をブロックして痛みのストレスを取り除いていきます。

【麻酔の方法】

1. 脊髄くも膜下麻酔法
2. 硬膜外麻酔法
3. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔法
4. 全身麻酔法（静脈内鎮静法を含む）法

しかし、麻酔は比較的安全な医療行為ですが、やはり以下のような合併症をお話ししておかななくてはなりません。合併症に対しては注意深く対処していきます。

- ✓ 悪心・嘔吐（50-70%）
- ✓ 頭痛・掻痒感（数%）
- ✓ 神経障害（脊髄くも膜下麻酔で 1/775,000、硬膜外麻酔で 1/168,000）
- ✓ 局所麻酔中毒、呼吸障害、心機能障害（1%以下）
- ✓ アナフィラキシー・ショック、悪性高熱（0.01%以下）
- ✓ 肺炎、呼吸障害

松田母子クリニック 院長 殿

上記説明を元に十分な説明を受け理解しましたので麻酔を受けることに同意いたします。
 また麻酔中に緊急の処置が必要となった場合には、適時処置されることについても同意します。
 以上、質問はありません。

署名日(西暦) 年 月 日

患者本人の氏名

※患者さん本人の署名があるときは以下代理人の署名は不要。

代理人氏名

（親族・保護者など）

患者との続柄